

スエーデン

版コネシ

北海道 16107 吹雪の訓練 - 十勝会 - (1108頁) 本編に追加
高知新 16264 本編同
新愛媛 1672
No. 429 37.4. 6

甲新 16107

一、ロッキード一号戦列へ

—小牧

ロッキードかグラマンかでいろいろと話題を呼んだ自衛隊の次期戦闘機も、ロッキードF-104Jに決り四月一日第一号の引渡式が愛知県小牧基地で行なわれました。お値段は一機四億円也。

最高時速は音速の二倍、空対空ミサイルを積む世界の第一級品も、日本では離着陸可能地が小牧と千歳の二ヶ所のみ。基地反対運動も激化している折から今後の滑走路問題で大きな難関が待ち受けている様です。

一、山男の“背水の陣”

—東京

石炭政策の転換と、石炭労働者の生活を保障しようと炭労は、十万人の東京大動員を開始。北海道から九州から、連日千人のヤマ男が、キャップ・ランプ姿で東京へ集結しています。軍隊組織のデモ部隊を編成し、宿舎も東京郊外に大テント村を建設しました。かくして、東京では連日ものしい姿で抗議や陳情デモをつづけています。

一人一日六百円の滞在費用は同僚が血のじむ思いでカンバしてくれたもの。切りつめたテント生活で朝早くから夜遅くまでデモをつづけています。今度こそこの人たちにしっかりした生活保障をしてほしいものです。

アイモ風土記

一、日本のスイス

—長野

美しい湖にのぞむ長野県諏訪市一帯。かつてこの地方は江戸末期にはじまる製糸工業が昭和初頭の輸出ブームをピークに“世界の糸都”といわれるほど繁栄しました。だが不況と戦争によって製糸工業は後退しかし製糸工業が抱えていた安くて豊富な労働力に目をつけた中央の精密工業が疎開し、戦後平和産業として定着。今日では“東洋のスイス”とまでいわれる程に発展しました。

しかし近代企業とはいえ、今日でも製糸時代の巨大な下請け企業をそのまま利用しているのが大きな特色です。

そして今日では工場建設による農地の減少は農業形態そのものも大きく変わりつつあり、又金科玉城だった低賃金も、昨今の求人難が反映して、社員寮はホテル並み、さらにある会社では職場恋愛を奨励、恋愛手当まで支給して企業防衛をはかる程。

こうして新しい時代の風土は、南信のすべてを急速に変えてゆきます。七年ぶりに行なわれた飯田のお練りまつりも、かつて時計やカメラがカニコにとって替ったように、いろいろどりの出しものをくり出し大変なにぎわいをみせています。

663

326

260

78